



2026年7月22日掲載

原油価格と株式市場の心理

中東情勢への懸念から原油価格は上昇しています。しかし、株価は以前ほど強く反応していません。

これは市場がインフレを無視しているというより、現在の原油価格の水準であれば、インフレへの影響は、まだ限定的だと考えているためでしょう。

原油価格は上昇しているとはいえ、4、5月の1バレル100ドルを超えていた局面と比べると、まだ低い水準です。ホルムズ海峡を巡る不透明感が残っていますが、原油価格が現状程度であれば、中東以外からの原油の輸入や代替エネルギーへの移行などが可能であることが分かり、市場は現時点で深刻な供給不足や大幅なインフレ加速を想定していないようです。そのため、原油高がインフレを加速し、米連邦準備理事会(FRB)の金融引き締めにつながるとの見方は広がっていません。

仮に今後、実際に利上げが見送られたり、米連邦公開市場委員会(FOMC)参加者の金利見通しが引き下げられたりすれば、利上げ懸念はさらに後退する可能性があります。

そうなれば、最近調整している人工知能(AI)・半導体関連株の市場心理にもプラスに働くでしょう。もちろん、関連業界の競争激化などの課題は残ります。しかし、金利を巡る不安が和らげば、市場の関心は再び企業業績やAI需要の拡大へ戻りやすくなります。

AI需要そのものは、依然として強いと考えています。今後の焦点は原油価格よりも、FRBがどの程度インフレを警戒するのか、そして市場がそれをどう受け止めるか、になりそうです。

(アモーヴァ・アセットマネジメント チーフ・ストラテジスト 神山 直樹)

※2025年9月1日、日興アセットマネジメント株式会社はアモーヴァ・アセットマネジメント株式会社に社名変更しました。

《本資料は執筆者の見解を記したものであり、当社としての見通しとは必ずしも一致しません。本資料のデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客さまご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》